

小学校校舎構造比較検討表

	鉄骨造 (S造)		鉄筋コンクリート造 (RC造)				
耐震性	文教施設としての耐震性能を満足できる (構造体：Ⅱ類)		◎	文教施設としての耐震性能を満足できる。 (構造体：Ⅱ類)	◎		
工期	RC造と比べて比較的躯体工事の工期が短縮可能		○	作業工程が多く躯体工事の工期が長い	△		
可変性	内部レイアウトの変更時は、筋かい以外の範囲で可能		◎	内部レイアウトの変更時は、柱、耐力壁以外の範囲で可能	○		
断熱性	外壁、天井に断熱を施す 断熱材料が多く必要になる		△	配慮により ○	コンクリート以外の外壁、天井に断熱を施す	△	配慮により ○
耐火性	鉄骨の耐火性を向上させることが必要 耐火被覆工事によるコスト増		△	配慮により ○	耐火性が高く、万が一火事になっても燃え広がりにくい	◎	
遮音性	壁や床の遮音性を上げることが必要 遮音性を上げる材料がコスト増		△	配慮により ○	壁が厚く、防音性が高い	◎	
居住性	RC造と比較し揺れやすく、振動が長く続きやすい		△	配慮により ○	S造と比較し揺れにくく、振動が起こっても納まるのが早い	◎	
耐久性	38年	主な減価償却資産の耐用年数表による年数 (法定耐用年数)；国税庁HPより	○	50年	主な減価償却資産の耐用年数表による年数 (法定耐用年数)；国税庁HPより	◎	
コスト※	360千円/㎡	長尾小 (R5施工) 33万/㎡*1.1	◎	配慮により ○	490千円/㎡	豊浜小単価 (R4施工) 41万/㎡*1.2	○
ランニングコスト	15年~20年ごとに外壁吹付改修、シーリング打ち換え工事が必要。 サイディングの場合は30年~40年で貼り換えが必要になる場合もある		○	15年~20年ごとに外壁吹付改修が必要	◎		
所見	性能的には鉄筋コンクリート造が優れ、初期コスト的には鉄骨造が有利と考えられる。ただし、鉄骨造の性能を鉄筋コンクリート造の性能に近づけるとコストも上昇します。県内の小学校校舎の実績としては、ほとんどが鉄筋コンクリート造でできており、鉄骨造の校舎はごくわずかであり築年数が浅く長期的な検証することは難しい。総合的に判断して、本計画では鉄筋コンクリート造を採用することが望ましいと考える。						

凡例 ◎：非常に良い（求められる内容を十分に発揮できる） ○：良い（求められる内容を発揮できる） △：配慮が必要（一定の配慮により対応可能）

※コストに関してはR6年度基準として、単年度毎に10%の上昇率を計上しています。